

昭和59年版 医師国家試験問題注解

——付・例題——



医師国家試験問題注解

編集委員会編

第6分冊

婦人科学

昭和59年版 医師国家試験問題注解

—付. 例題—

医師国家試験問題注解

編集委員会編

問題編



第6分冊

婦人科学



重医附一院

00163109



金原出版株式会社

東京・大阪・京都

序

本書の昭和59年版を現役の医学生諸君と、医師国家試験を控えている卒業生諸君にお届けする。本書は今回より問題編と解答・注解編の2分冊とはなったが、合わせてみると何と重いことか、そして何と厚いことか。人は言う、まるで電話帳みたいではないか、と。悪口とも聞こえ、また、本書の意義を高く評価しているようにも響く。

頁を繰るだけで、何となく圧倒されたような気持になる。当然かもしれない。しかし諸君がこれまで読んだ臨床医学の参考書のすべてを積んでみたまえ。何と背の高いことか。本書は、それらの内容をまことに手際よくコンパクトにしたものと考えたらよいだろう。つまり、臨床医学のエッセンスを集約したのが本書であるといっても過言ではないのである。

医師国家試験は、臨床上必要な医学および公衆衛生に関して、医師として具有すべき知識および技能について、これを行う、ことになっている。だから基本的問題のみが出題されてよさそうに思われるが、実際はなかなかそうもいかないようである。いわゆる難問、奇問が少なくなっていることは近年のよい傾向ではあるが、やはり今でもひとひねりした問題がないとはいえない。大学の医学教育をきちんと受けていれば、自然に医師国家試験はパスできるはずであるが、実際はそうでもないところに問題がある。これまでの出題問題をよく検討しておくことはどうしても必要である。また、MCQ方式の問題を解答するには、ちょっとしたコツも必要ようである。こういったことを予じめ会得しておくのと、おかないのとでは天地雲泥の差である。医師国家試験を通過すれば医師になれるのに、不合格であつたら、ただの人になることは、諸君が一番よく知っているはずである。だから、医科大学を卒業した以上は、どうしても医師国家試験に合格しなければならない。それがためには、医科大学における講義と実習をまじめに受けた上に、本書のような例題を中心にした実践的訓練をしておくことが重要なのである。

今、医師国家試験は曲り角にきている。厚生省の中に「医師国家試験制度改善委員会」ができて今大いに議論し、検討が行われている。やさしくして合格率を上げるのが目的ではなく、卒前教育を修了した時点で、これから指導医の下で診療に従事してよいか、どうかの資格を認定するための正しい試験になるようにするための作業が行われていると解してよいだろう。

本書には、医師国家試験のためという目的のあることは間違いないが、それとともに、臨床各科の学習のポイントが示されているとみてよい。必ずや諸君のこれからの勉強に役立つといてよいと思う。ぜひ座右において、臨床各科の補習書として役立てるように希望したい。それも、医師国家試験を目前にして利用するのではなく、休暇を利用してじっくり利用してみるというやり方をおすすめしたい。

本書の厚さと重さに圧倒されずに、slow でもよいから steady に、しかも休暇を利用して本書を利用されることを心から望みたい。

昭和 58 年 5 月

医師国家試験問題注解編集委員会

各科領域の問題を読まれる方へ

F. 婦人科学

婦人科学の特徴は、リプロダクションを目指した性機能の生理と病理（妊娠前産科学）とあわせて、個体のメンテナンス、特にその障害因子となる悪性腫瘍の病態につき学習する臨床医学である。したがって、①性機能発現の機構を熟知すること、②その機構の乱れが症状あるいは病態としてどのように発現するか、③また逆に症状の発現がどのような原因によるかの診断手順、④それをもとにした、合理的治療のあり方などが重要な問題となる。

後者に関しては、①婦人科腫瘍の特徴、②子宮頸癌の病態、③特にその早期診断、④子宮体癌の病態、診断、⑤卵巣腫瘍の多様性、⑥絨毛性腫瘍の特異性格などが重要視されるが、一方、症候論的な問題としての婦人科臨床の理解も重要な事項である。すなわち、思春期婦人科、月経異常、不正性器出血、下腹痛、異常帯下、不妊、更年期障害などの原因論的理解が要求される。

設問に関しては、既出問題が求めている婦人科臨床の重要事項を中心に、既出問題との関連で例題を作成し、解答を出すに必要な基本的考えを注解として記述したもので、順序は厚生省より出された出題基準に則したものである。ただし選択肢が多岐にわたる問題が多く、出題基準の小項目別理解を越えて、より系

婦 人 科

【問1】 次の組合わせのうち不適当なのはどれか。

- | | |
|---------------------|---------------------------|
| a 第1度無月経——Clomid 投与 | b 第2度無月経——結合型 estrogen 静注 |
| c 多嚢胞性卵巣——楔状切除 | d 黄体機能不全症——HCG 投与 |
| e 子宮發育不全症——偽妊娠療法 | |

【問2】 内腸骨動脈の分枝が直接達していない臓器はどれか。

- | | | | |
|-------------------|--------------|---------------|---------|
| (1) 外 陰 | (2) 腔 | (3) 子 宮 | (4) 卵 巢 |
| a (1), (3), (4)のみ | b (1), (2)のみ | c (2), (3)のみ | |
| d (4)のみ | | e (1)~(4)のすべて | |

【問3】 子宮と卵巣の両方に付着する組織はどれか。

- | | | | | |
|-------------------|---------------|------------|------------|------------|
| (1) 固有卵巣索(卵巣固有靱帯) | (2) 子宮円索(円靱帯) | | | |
| (3) 卵巣提索(骨盤漏斗靱帯) | (4) 子宮旁結合織 | | | |
| (5) 広間膜(広靱帯) | | | | |
| a (1), (2) | b (1), (5) | c (2), (3) | d (3), (4) | e (4), (5) |

【問4】 外胚葉に由来するものは次のうちどれか。

- | | | |
|---------|--------------|-------|
| a 下垂体前葉 | b 心 臓 | c 消化器 |
| d 骨格筋 | e 上記のいずれでもない | |

【問5】 次のうち正しいものはどれか。

- | | | |
|------------------------------------|------------------------|---------------|
| (1) 子宮動脈は内腸骨動脈より分枝する。 | (2) Skene 腺は腔前庭部へ開口する。 | |
| (3) 外陰リンパの大部分は浅鼠径リンパ節に注ぐ。 | | |
| (4) 子宮峡部とは解剖学的内子宮口から組織学的内子宮口までをいう。 | | |
| a (1), (3), (4)のみ | b (1), (2)のみ | c (2), (3)のみ |
| d (4)のみ | | e (1)~(4)のすべて |

【問6】 次のうち正しいのはどれか。

- | | | |
|------------------------------|------------------------------|-----------------------|
| (1) 子宮は Müller 管の癒合により形成される。 | (2) 卵巣は Wolf 管の發育増殖により形成される。 | (3) 重複子宮でも卵巣は通常2個である。 |
| a (1)のみ | b (2)のみ | c (1), (3)のみ |
| d (2), (3)のみ | | e 上記 a~d 以外 |

【問7】 Müller 管の發育異常と関係があるのはどれか。

- | | | |
|------------|-------------------------------|------------|
| (1) 処女膜閉鎖 | (2) 腔中隔 | (3) 双角子宮 |
| (4) 卵巣形成不全 | (5) 卵巣上体嚢胞 (paraovarian cyst) | |
| a (1), (2) | b (1), (5) | c (2), (3) |
| d (3), (4) | | e (4), (5) |

【問8】 付属器摘出術で切断する必要のあるのはどれか。

- | | | |
|-------------------|-----------------|-----------------|
| (1) 卵巣提索(骨盤漏斗靱帯) | (2) 子宮円索(円靱帯) | |
| (3) 中部子宮支帯(基靱帯) | (4) 子宮広間膜(広靱帯) | |
| (5) 固有卵巣索(卵巣固有靱帯) | | |
| a (1), (2), (3) | b (1), (2), (5) | c (1), (4), (5) |
| d (2), (3), (4) | | e (3), (4), (5) |

【問9】 女性生殖器官の発生について誤りはどれか。

- | | |
|---------------------------------|----------------------------------|
| a 卵管はミューラー管より発生する。 | b 子宮は胎齡12週に両側ミューラー管の癒合により単子宮となる。 |
| c 腔上皮組織はミューラー管より発生する。 | |
| d 陰唇は総排泄口膜を囲む皮膚の隆起(生殖隆起)より発生する。 | |
| e 以上のいずれでもない。 | |

【問10】 性腺の発生について正しいのはどれか。

- | | |
|-------------------------------------|--------------------------------|
| (1) 性腺原基は胎生初期において、卵巣率丸への二方向性分化能をもつ。 | (2) 性腺の分化は主としてセックスクロマチンの支配による。 |
|-------------------------------------|--------------------------------|

2 婦人科—問題

(3) 性腺は皮質と髄質の二層に分かれ、髄質の肥大は将来の卵巣となる。

(4) 発達した卵巣の髄質には、睾丸組織の痕跡遺残がみられる。

- a (1), (2) b (1), (3) c (1), (4)
d (2), (3) e (3), (4)

【問 11】 次のうち正しいのはどれか。

(1) 子宮円索は恥骨結節に付着する。 (2) 子宮動脈は外腸骨動脈から分枝する。

(3) 右卵巣静脈は右腎静脈に注ぐ。

(4) 基韧带(中部子宮支帯)は子宮体から骨盤側壁に達する。

(5) 膣の下方 1/3 のリンパ管は浅鼠径節に注ぐ。

- a (1), (2) b (1), (5) c (2), (3) d (3), (4) e (4), (5)

【問 12】 次のうち誤りはどれか。

a 成熟期婦人の卵巣は約母指頭大である。

b 成熟期婦人の卵管は約10~12cm である。

c 成人の子宮腔長は約7cm で、体部と頸部の比率は約1:1である。

d 子宮の大きさは、経産の有無により異なる。

e 成人の腔腔長は約8~10cm で、後腔円蓋の方が前腔円蓋より長い。

【問 13】 子宮支持組織として正しい組合わせはどれか。

(1) 子宮広間膜 (2) 子宮卵巣索

(3) 基韧带 (4) 膀胱子宮韧带

(5) 仙骨子宮韧带

- a (1), (2), (3) b (1), (2), (4) c (2), (4), (5)
d (3), (4), (5) e 以上のすべて

【問 14】 次の文章のうち誤りはどれか。

a 卵管上皮は卵の子宮内移送のため表面に線毛をもつ。

b 子宮内膜上皮は、排卵後に分裂(増殖)がたかまる。

c 頸管上皮は分泌機能をもち、エストロゲンの支配を受ける。

d 子宮腔部の上皮は扁平上皮で、正常では外子宮口を境として上方は円柱上皮となる。

e 腔上皮は、性成熟期において表層が角化し、グリコーゲンを含有する。

【問 15】 次の組合わせで誤りはどれか。

a 線毛上皮——卵 管

b 円柱上皮——子宮体部

c 移行上皮——子宮頸部

d 重層扁平上皮——腔

e 円柱上皮——腔部びらん

【問 16】 手術操作と手術名との組合わせで適当なものはどれか。

a 基韧带の骨盤側切断——広汎子宮全摘術

b 頸部に沿い基韧带を切断——子宮腔上部切断術

c 骨盤漏斗韧带を短縮——子宮脱手術

d 子宮円索と卵管子宮側の切断——付属器摘除術

e 子宮体の膀胱腔間固定——子宮後屈整復術

【問 17】 次のうち正しいものはどれか。

a 原始卵胞は卵巣髄質を中心に存在する。

b 閉鎖卵胞は排卵後の退行性変化により生ずる。

c 顆粒膜細胞層は卵胞上皮の増殖により形成される。

d 英膜細胞は顆粒膜細胞の分化型である。

e 月経黄体は排卵後約2週間で白体となる。

【問 18】 月経について正しいものの組合わせはどれか。

(1) 満10歳未満の来潮を早発月経という。 (2) 更年期は平均50歳である。

(3) 36日以上周期をもつ場合稀発月経という。

(4) 月経量は平均60ml である。

- a (1), (2), (3)のみ b (1), (3)のみ c (2), (4)のみ
d (4)のみ e (1)~(4)のすべて

【問 19】 排卵期の頸管粘液の性状について正しいものはどれか。

- a 量は変わらない。 b 索糸性は高く、粘稠性は低い。
c 細胞数増加し白濁。 d 羊歯葉状で結晶の形成が少ない。
e pH は酸性に傾く。

【問 20】 次の文のうち正しいものはどれか。

- a ギナトトロピンの分泌上昇は膈上皮の角化を促進する。
b プロゲステロンにより、膈上皮の分泌がたかまる。
c 膈上皮のグリコーゲンは膈内球菌により酸化され乳酸をつくる。
d 膈内酸性度は脂肪酸濃度に支配される。
e 上記のいずれでもない。

【問 21】 排卵の有無、時期の診断に一般臨床検査で不適当なものはどれか。

- a 基礎体温測定 b 頸管粘液検査 c 内膜組織診
d 尿中プレグナンジオール測定 e 上記以外のもの。

【問 22】 次のうち正しいものはどれか。

- a 排卵は成熟卵胞にプロラクチンが作用することによって起こる。
b 月経周期におけるエストロゲンの分泌動態をみると2つのピークがある。その1つは排卵期にあり、他の1つは黄体期にある。
c 妊娠黄体の機能はもっぱら、下垂体前葉から分泌される GH によって維持されるものと考えられている。
d 受精卵は桑実期に着床する。
e 胎盤絨毛組織の上皮性細胞はシンチチウム細胞(合胞細胞)のみである。

【問 23】 性周期について適当でないのは次のうちどれか。

- a 月経が終了すると直ちに視床下部の LH-RH が作動する。
b LH-RH は下垂体前葉に働き前葉から LH が分泌される。
c LH は成熟した卵胞に排卵を起こさせ黄体が形成される。
d 黄体からはエストロゲンとプロゲステロンが分泌される。
e 受精しないと性ステロイドが急激に消退して月経が起こる。

【問 24】 次のうち正しいのはどれか。

- (1) 卵巣の内荳膜細胞はエストロゲン分泌に関与する。
(2) 月経周期の長短は通常、増殖期の長短により左右される。
(3) 月経時剝脱する子宮内膜は緻密層と海綿層の両者である。
(4) 妊娠時の脱膜細胞は結合組織細胞が上皮様に変化したものである。

- a (1), (3), (4)のみ b (1), (2)のみ c (2), (3)のみ
d (4)のみ e (1)~(4)のすべて

【問 25】 性腺刺激ホルモンについて誤っているのはどれか。

- a FSH は初経前に分泌量が増加する。 b PMS は FSH 作用が強い。
c HCG は LH 作用が強い。 d HMG は LH 作用が強い。
e LH の分泌は排卵期に一致したピークを示す。

【問 26】 エストロゲン分泌を反映しているのはどれか。

- (1) 頸管粘液の羊歯葉状結晶形成 (2) 尿中プレグナンジオール増量
(3) 基礎体温高温相 (4) ゲスターゲン試験陽性
(5) 膈スミアのエオジン好性上皮細胞増加
a (1), (2), (3) b (1), (2), (5) c (1), (4), (5)
d (2), (3), (4) e (3), (4), (5)

【問 27】 正常月経について誤っているのはどれか。

- a 月経時、子宮内膜の基底層は剝脱する。 b 月経時、頸管内膜は剝脱しない。
c 月経時、卵管内膜は剝脱しない。 d 非妊時でも子宮内膜に脱膜様変性は生ずる。
e 月経周期の第1日とは月経開始日をいう。

4 婦人科一問題

【問 28】 次のうち誤っているのはどれか。

- a 下垂体から分泌される FSH は卵胞発育を促進する。
- b estrogen の上昇後、視床下部から LH-RH が分泌される。
- c LH は FSH と協同して成熟卵胞に排卵を起こす。
- d LTH は他のホルモンと協同して乳腺を発育させる。
- e 排卵誘発剤の clomiphene citrate (Clomid) は LH-RH の誘導体である。

【問 29】 次のうち正しいのはどれか。

- (1) estradiol は estriol より estrogen 作用が強い。
 - (2) progesterone が増量すると頸管粘液量も増加する。
 - (3) FSH 分泌は更年期や去勢後に減少する。
 - (4) HCG は LH 作用をもつ。
 - (5) LH は精巣に作用し androgen 分泌を促進させる。
- a (1), (2), (3) b (1), (2), (5) c (1), (4), (5)
d (2), (3), (4) e (3), (4), (5)

【問 30】 次の文のうち正しいものはどれか。

- a 排卵は LH により起こる。
- b FSH は LH の産生をみちびく。
- c 黄体からもエストロゲン分泌は続く。
- d 排卵直後には卵胞内が白色を呈しそれを白体と呼ぶ。
- e 子宮内膜上皮の増殖は、エストロゲンとプロゲステロンの協力作用による。

【問 31】 正常周期において排卵に関係深いホルモンの組合わせはどれか。

- (1) ギナドトロピン RH (2) FSH (3) LH (4) エストロゲン
- a (1), (2), (3)のみ b (2), (3)のみ c (3), (4)のみ
- d (4)のみ e (1)~(4)のすべて

【問 32】 次のうち正しいのはどれか。

- (1) 卵胞が成熟すると尿中プレグナジオールが増量する。
 - (2) LH 分泌は月経直前にピークを示す。
 - (3) 月経黄体の存続期間はほぼ一定している。
 - (4) 分泌期子宮内膜の機能層は基底層より厚い。
 - (5) 分泌期子宮内膜にはグリコーゲンが増量している。
- a (1), (2), (3) b (1), (2), (5) c (1), (4), (5)
d (2), (3), (4) e (3), (4), (5)

【問 33】 主として FSH 作用のあるものはどれか。

- (1) PMS (妊馬血清性ゴナドトロピン) (2) HCG (ヒト絨毛性ゴナドトロピン)
- (3) HMG (ヒト更年期尿性ゴナドトロピン) (4) HPG (ヒト下垂体性ゴナドトロピン)
- a (1), (3), (4)のみ b (1), (2)のみ c (2), (3)のみ
- d (4)のみ e (1)~(4)のすべて

【問 34】 次のうち誤っているのはどれか。

- a 排卵は通常、予定月経開始日より逆算して12~16日に起こる。
- b 頸管粘液は排卵期直前に増量する。
- c 排卵直後の子宮内膜腺細胞には核下空胞がみられる。
- d BBT の高温相の時期にはエストロゲンが分泌されている。
- e 月経前期の膣スミアには好酸性表層細胞が増加する。

【問 35】 ステロイドホルモンについて正しいのはどれか。

- (1) estradiol は男性では分泌されない。
 - (2) 排卵の証明に血中 progesterone の測定が行われる。
 - (3) 妊娠中 aldosterone の分泌は増加する。
 - (4) 正常婦人で dehydroepiandrosterone は大部分卵巣から分泌される。
- a (1), (3), (4)のみ b (1), (2)のみ c (2), (3)のみ
d (4)のみ e (1)~(4)のすべて

【問 36】 月経周期について正しいのはどれか。

- (1) 初潮開始時は無排卵性月経のことが多い。

- (2) 卵巣からの progesterone の分泌増加は排卵に先行する。
 (3) 月経周期の長短は主として分泌期の期間に左右される。
 (4) 月経は一種の破綻出血 (breakthrough bleeding) である。

a (1), (3), (4)のみ b (1), (2)のみ c (2), (3)のみ
 d (4)のみ e (1)~(4)のすべて

【問 37】 62歳の婦人が性器出血を主訴として来院した。子宮体がやや増大している以外に視触診上異常を認めない。この場合、もっとも疑うべき疾患はどれか。

a 子宮内膜炎 b 子宮腺筋症 c 子宮筋腫
 d 子宮絨毛上皮腫 e 子宮内膜癌

【問 38】 次のうち正しいのはどれか。

- (1) 絨毛上皮腫は正常分娩後にも発生する。 (2) 子宮筋腫の好発年齢は20歳代である。
 (3) 子宮体癌は月経周期のある婦人に多い。
 (4) 子宮頸癌は腔部扁平上皮領域より発生することが多い。
 (5) 卵巣癌の臨床進行情形分類は開腹時所見で行う。

a (1), (2) b (1), (5) c (2), (3) d (3), (4) e (4), (5)

【問 39】 次の文のうち正しいものはどれか。

- a 腔上皮層は幼児期、思春期、成熟期を通して、その厚さは変らない。
 b 小児期の子宮は、頸部と体部の区別がつけ難い。
 c 子宮腔部びらんの広さは、思春期がもっとも大きい。
 d S-C-junction は、更年期以後には頸管内へと移行する傾向がある。
 e 老人期でも卵管は退行性変化を示さない。

【問 40】 閉経後長時間を経た老女が不正性器出血並びに不規則に出現する下腹部の陣痛様疼痛と膿性帯下を訴えて来院した。子宮は増大するも子宮腔部、腔壁、外陰に異常所見は認められない。この場合もっとも可能性の高い疾患は次のうちどれか。

a 機能性子宮出血 b 子宮体癌 c 子宮筋腫 d 卵巣腫瘍 e 子宮頸癌

【問 41】 次のうち正しいのはどれか。

- (1) Friedman 反応はウサギを用いる尿中 HCG 検査法である。
 (2) 尿中 estriol 測定は胎児胎盤系機能検査法の一つである。
 (3) Huhner テストは頸管粘液中の細菌を検出する検査法である。
 (4) Rubin テストは卵管通水法の一つである。

a (1), (3), (4)のみ b (1), (2)のみ c (2), (3)のみ
 d (4)のみ e (1)~(4)のすべて

【問 42】 習慣性流産の原因となりうるものはどれか。

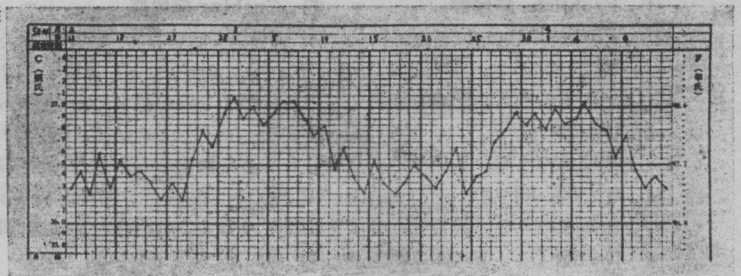
- (1) 単純甲状腺腫 (2) 頸管無力症 (3) 黄体機能不全
 (4) 双角子宮 (5) 卵巣嚢腫
 a (1), (2), (3) b (1), (2), (5) c (1), (4), (5)
 d (2), (3), (4) e (3), (4), (5)

【問 43】 25歳の婦人、初経は13歳で以後月経順調であったが、約1年前より次第に経血量が減少し、3か月前より無月経となった。基礎体温はほぼ正常の二相性を呈する。もっとも考えられる疾患はどれか。

a 子宮結核 b 子宮發育不全 c 子宮頸管狭窄
 d 男性化胚細胞腫 e 下垂体機能不全

【問 44】 右の図は20歳の原発性無月経患者の基礎体温表である。この患者について正しいものはどれか。

- (1) プロゲステロン投与により消退出血を起こし得る。
 (2) Müller 管の高度發育不全を疑う。



6 婦人科一問題

(3) 結核性子宮内膜炎を疑う。

(4) 副腎性器症候群の可能性がある。

(5) 卵巣の楔状切除術の適応である。

a (1), (2) b (1), (5) c (2), (3) d (3), (4) e (4), (5)

【問 45】 性器出血がもっとも起こり難いのは次のうちどれか。

a トリコモナス陰炎 b 副腎性器症候群 c 莢膜細胞腫
d 子宮筋腫 e 子宮内膜増殖症

【問 46】 下記の疾患の組合わせのうち、無月経と関連するものはどれか。

(1) 神経性食欲不振症 (2) 莢膜細胞腫
(3) ターナー症候群 (4) 男化胚細胞腫
(5) 両側卵巣嚢腫

a (1), (2), (3) b (1), (3), (4) c (1), (4), (5)
d (2), (3), (5) e (2), (4), (5)

【問 47】 無月経症に関し次のうち正しい組合わせはどれか。

a 神経性食欲不振症——視床下部性無月経
b フレーリッヒ症候群——下垂体性無月経
c クッシング症候群——甲状腺性無月経
d ターナー症候群——子宮性無月経
e 偽性無月経——卵巣性無月経

【問 48】 過多月経を起こすのはどれか。

a 子宮漿膜下筋腫 b 子宮粘膜下筋腫 c Asherman 症候群
d 子宮体癌 e 子宮結核

【問 49】 次の組合わせのうち誤っているのはどれか。

a Klinefelter 症候群——男性化 b Sheehan 症候群——無月経
c Turner 症候群——翼状頸 d Stein-Leventhal 症候群——無排卵
e Chiari-Frommel 症候群——乳汁漏出

【問 50】 次のうち誤っているものはどれか。

a ステロイドホルモン投与による子宮出血には消退出血と破綻出血がある。
b 妊娠中にエストロゲンやプロゲステロンを投与しても、消退出血は起こらない。
c HCG や HPL は胎盤で産生されるステロイドホルモンである。
d 妊娠時にみられるサイロキシシン結合蛋白の増加は、多量に分泌されるエストロゲンの作用によると考えられる。
e 血中耐熱アルカリ性フォスファターゼ活性値の測定は胎盤機能の検査に用いられる。

【問 51】 35歳の主婦。最終月経より約10週間後、少量の不正性器出血を訴えて来院。軽度貧血状で悪阻症状が強く、子宮は小児頭大で軟らかい。また左付属器部位に嚢胞状の腫瘤に触れる。

この患者に行う最も適当な検査の組合わせは次のうちどれか。

(1) Doppler 法 (2) 尿中 HCG 定量 (3) 腹腔鏡検査
(4) Douglas 窩穿刺 (5) 超音波断層法

a (1), (2), (3) b (1), (2), (5) c (1), (4), (5)
d (2), (3), (4) e (3), (4), (5)

【問 52】 次に列記した疾患（症候群）名をもとにA～Fに答えよ。

(1) Addison 病 (2) Basedow 病 (3) Simmond 病
(4) Fröhlich 症候群 (5) Cushing 症候群 (6) Chiari-Frommel 症候群
(7) Forbes-Albright 症候群 (8) Stein-Leventhal 症候群 (9) Argonz-del-Castillo 症候群

A. 上記疾患のうち、肥満を症状としてあらわすものの組合わせは次のどれか。

a (1), (3), (7) b (2), (5), (6) c (4), (5), (7) d (6), (8), (9)

B. 上記疾患のうち、るいそうを症状としてあらわすものの組合わせは次のどれか。

a (1), (2), (3) b (1), (4), (6) c (2), (5), (8) d (3), (7), (9)

C. 上記疾患のうち、異常乳汁分泌を症状とするものの組合わせは次のどれか。

a (3), (5) b (4), (7) c (4), (9) d (5), (6) e (6), (9)

D. 上記疾患のうち、下垂体障害を認めるものの組合わせは次のどれか。

- a (1), (3), (6) b (2), (4), (8) c (3), (4), (7)
d (5), (6), (9) e a～dのいずれでもない。

E. 上記疾患のうち、副腎障害を認めるものの組合わせは次のどれか。

- a (1), (3) b (1) (6) c (3), (5)
d (4), (9) e a～dのいずれでもない。

F. 上記疾患のうち、男性化徴候を示すものの組合わせは次のどれか。

- a (3), (6) b (4), (9) c (5), (7) d (6), (8) e (7), (8)

【問 53】 次の症状と疾患名の組合わせの中、不適当なものはどれか。

- a 月経困難症——子宮内膜症 b 稀発月経——子宮内膜増殖症
c 無月経——甲状腺機能亢進症 d 乳汁漏泄——アルゴンツ-デル-カスティロ症候群
e 膿性帯下——トリコモナス膣炎

【問 54】 次の疾患名と検査法の組合わせの中、不適当なものはどれか。

- a Klinefelter 症候群——染色体検査 b 副腎性器症候群——尿中 pregnantriol
c 絨毛性腫瘍——PAG d 顆粒膜細胞腫——尿中 pregnandiol
e Sheehan病——LH-RH テスト

【問 55】 次の検査のうち黄体機能不全の診断に適当なものはどれか。

- (1) BBT 測定 (2) 子宮内膜組織診 (3) Schiller テスト (4) Rubin テスト
a (1), (3), (4)のみ b (1), (2)のみ c (2), (3)のみ
d (4)のみ e (1)～(4)のすべて

【問 56】 次の文章のうち誤りはどれか。

- a 思春期前に少量の性器出血がみられた場合、これを早発月経と呼ぶ。
b 排卵がなくても周期的に性器出血が起こることもある。
c わずかな無月経期間ののち、腹痛を訴え、ダグラス窩穿刺で血液を採取したが、なお子宮外妊娠と
 確診し得ない。
d 子宮筋腫があれば、不正出血をみることがある。
e 体癌は頸癌よりも早期に出血をみ、周囲組織への拡がりも早く予後は悪い。

【問 57】 基礎体温測定が不適当な場合はどれか。

- a 妊娠の早期診断 b 胞状奇胎娩出後の管理 c 機能性子宮出血
d 卵巣嚢腫の診断 e 月経困難症

【問 58】 月経痛との関係が殆んど認められない疾患の組合わせは次のうちどれか。

- (1) 子宮内膜症 (2) 子宮筋腫 (3) 癒着性卵管炎
(4) 子宮頸管狭窄 (5) 無排卵性月経
a (1)～(2) b (1)～(4) c (2)～(3) d (3)～(5) e (4)～(5)

【問 59】 Stein-Leventhal 症候群がもっとも考えられるものは次のどの組合わせか。

- (1) 無月経 (2) 外性器奇形 (3) 卵巣腫大
(4) 副腎皮質肥大 (5) 多毛
a (1), (2), (3) b (1), (2), (4) c (1), (3), (5)
d (2), (4), (5) e (3), (4), (5)

【問 60】 続発性無月経を子宮性、卵巣性および中枢性に区別するが、子宮性とするのもっとも妥当な場合は次のうちどれか。

- a プロゲステロン投与によって出血あり。
b プロゲステロン投与によって出血なし。
c エストロゲンとプロゲステロン投与によって出血あり。
d エストロゲンとプロゲステロン投与によって出血なし。
e ギナドトロピン投与によって出血あり。

【問 61】 無月経症婦人に対し、以下の文章の中に記載されている内容の検査—診断—治療を行った。正しいものはどれか。

- a 血中ゴナドトロピンを測定し、LH の異常高値を認め、また両側卵巣の腫大を触知する。多嚢胞性卵巣と診断し、両側卵巣の部分切除術を行った。

8 婦人科一問題

- b LH-RH 負荷後に血中ゴナドトロピン値の上昇を認め、下垂体前葉の機能障害と診断し、ゴナドトロピン療法を行った。
- c エストロゲン前処置後にプロゲステロンの投与を行い消退性出血を認めた。これを第1度無月経と診断し、クロミッド療法を行った。
- d 外性器に男性化徴候を認め、染色体検査により副腎性器症候群と診断しコーチゾール療法を行った。
- e 高度の性器発育不全を認めるも、BBT は排卵性曲線を示す。そこでターナー症候群と診断し、カウフマン療法を行った。

【問 62】 次の文章から、A～C に対し解答せよ。

18歳の女性、原発性無月経を訴え来院す。身長は140cm、翼状頸をしめし、難聴である。上肢において外反肘、第5指の短縮を認める。

A. この症例の診断にもっとも適切な検査法はどれか。

- a 手、足関節のレ線撮影
- b 血中ゴナドトロピン測定
- c 尿中エストロゲン測定
- d トルコ鞍撮影
- e 染色体検査

B. この症例においてもっとも疑われる診断名はどれか。

- a Sheehan 病
- b 睾丸性女性化症候群
- c Albright 症候群
- d Turner 症候群
- e 先天性副腎過形成

C. 本症例による治療法としているものはどれか。

- a androgen 療法
- b glucocorticoid 療法
- c Kaufmann療法
- d gonadotropin 療法
- e growth hormone 療法

【問 63】 次の組合わせて適切でないものはどれか。

- a 無排卵症——クロミッド投与
- b 更年期障害——スメアインデックス
- c 前置胎盤——超音波断層法
- d 子宮内膜症——黄体ホルモン投与
- e 泌乳停止——HCG 投与

【問 64】 次の組合わせのうち不適当なのはどれか。

- (1) エストロゲン投与——子宮内膜症
 - (2) HCG 投与——更年期障害
 - (3) HMG 投与——切迫流産
 - (4) プロゲステロン投与——第1度無月経
 - (5) ゲスターゲン投与——月経困難症
- a (1), (2), (3)
 - b (1), (2), (5)
 - c (1), (4), (5)
 - d (2), (3), (4)
 - e (3), (4), (5)

【問 65】 次のうち誤っているのはどれか。

- a 子宮腺筋症の病巣は限界明瞭である。
- b 頸管ポリープの悪性化はまれである。
- c 卵管炎は癒着性子宮後転症の原因となる。
- d 卵巣充実性腫瘍には悪性のものが多い。
- e 子宮脱では膀胱脱を伴うことが多い。

【問 66】 付属器炎の合併症および後遺症としてもっともまれなのはどれか。

- a Douglas窩膿瘍
- b 癒着性子宮後転症
- c 汎発性腹膜炎
- d 不妊症
- e 卵管妊娠

【問 67】 次の組合わせて正しいのはどれか。

- (1) Döderlein 杆菌——乳酸生成
 - (2) Candida albicans ——外陰部褐色苔
 - (3) 膺トリコモナス——子宮腔部出血斑
 - (4) ヘルペスウイルス——外陰部水疱
- a (1), (3), (4)のみ
 - b (1), (2)のみ
 - c (2), (3)のみ
 - d (4)のみ
 - e (1)～(4)のすべて

【問 68】 Bartholin 腺嚢胞について正しいのはどれか。

- (1) Wolf 管由来である。
 - (2) 排泄管閉塞により生じる。
 - (3) 癌化することはまれである。
 - (4) 閉経前後に好発する。
 - (5) 両側性発生のことが多い。
- a (1), (2)
 - b (1), (5)
 - c (2), (3)
 - d (3), (4)
 - e (4), (5)

【問 69】 卵管閉塞ともっとも関係の少ないものは次のうちどれか。

- a 卵管炎
- b 子宮内膜炎
- c 卵管溜水腫

d 性器結核

e 卵巣嚢腫

【問 70】疾患と好発部位の組合わせて正しいのはどれか。

(1) 尖形(圭)コンジローム——子宮頸部

(2) 子宮内膜症——子宮内膜

(3) Paget 病——外陰

(4) 性器結核——卵管

(5) 大腸菌感染症——膀胱

a (1), (2), (3)

b (1), (2), (5)

c (1), (4), (5)

d (2), (3), (4)

e (3), (4), (5)

【問 71】次のうち適切でないのはどれか。

(1) 老人性膣炎は癌に移行しやすい。

(2) 正常成熟婦人の膣内容は第3度清浄度を示すことが多い。

(3) 抗生物質を大量に使用すると膣真菌症が起こりやすい。

(4) 原発性膣癌はまれな疾患である。

(5) 膣中隔は流産の原因にならない。

a (1), (2)のみ

b (2), (3)のみ

c (3), (4)のみ

d (4), (5)のみ

e 上記 a～d 以外

【問 72】次の投薬について適切でないのはどれか。

a 陣痛誘発——prostaglandins

b 膣カンジダ症——ペニシリン

c 弛緩出血——麦角剤

d 破壊性奇胎——MTX

e トリコモナス膣炎——metronidazole (フラジール)

【問 73】次の組合わせのうち誤りはどれか。

a 子宮頸癌——肉汁様帯下

b 老人性子宮内膜炎——粘液性帯下

c トリコモナス膣炎——帯黄白色、泥沫状帯下

d カンジダ膣炎——酒粕様帯下

e 頸管炎——粘液性、粘液膿性帯下

【問 74】次のうち正しい組合わせはどれか。

1. 膣内容の清浄度Ⅰ度のときは、Döderlein 桿菌がほとんど存在しない。

2. 子宮頸管粘液の分泌はエストロゲンにより増量する。

3. 膣トリコモナス症の検査は通常膣内容を塗抹乾燥し染色して行う。

4. 膣カンジダ症の帯下は白色ヨーグルトもしくはチーズ状である。

5. 外陰癌の頻度は子宮頸癌、子宮体癌、卵巣癌に次いで女性性器癌の第4位である。

a (1), (2), (3)

b (1), (2), (4)

c (1), (3), (5)

d (2), (4), (5)

e (3), (4), (5)

【問 75】次のうち正しいのはどれか。

(1) 鎖陰では月経モリミナを認める。

(2) 膣欠損症では人工造膣により妊娠可能となる。

(3) 副腎性器症候群では副腎皮質ホルモン剤投与により排卵を起こすことができる。

(4) 睾丸性女性化症では通常、子宮を欠如する。

a (1), (3), (4)のみ

b (1), (2)のみ

c (2), (3)のみ

d (4)のみ

e (1)～(4)のすべて

【問 76】子宮脱と関係が深いものはどれか。

(1) 子宮頸部延長

(2) 陳旧性会陰裂傷

(3) 切迫(緊張性)尿失禁(stress incontinence)

(4) 子宮腔部潰瘍

a (1), (3), (4)のみ

b (1), (2)のみ

c (2), (3)のみ

d (4)のみ

e (1)～(4)のすべて

【問 77】子宮下垂、子宮脱について適切でないのはどれか。

a 原因は骨盤底筋群および基靭帯(ligamentum cardinale)の機能障害による。

b 経産婦ことに多産婦に多い。

c 根治手術は Alexander 法である。

d 尿管水腫を伴うことがある。

10 婦人科一問題

e しばしば子宮頸(部)延長症 (elongatio colli) を伴う。

【問 78】 子宮腔部びらんについて正しいのはどれか。

- (1) 原則として腔スミアテストを実施すべきである。
- (2) 発生にはエストロゲンが関係する。
- (3) 扁平円柱上皮境界 (SCJ) は40歳をすぎると外方に向かう。
- (4) 多くは単なる上皮の剝脱である。
- (5) Naboth 卵は脂腺の分泌により生ずる。

a (1), (2) b (1), (5) c (2), (3) d (3), (4) e (4), (5)

【問 79】 子宮の病変について正しいのはどれか。

- (1) 子宮腺筋症 (adenomyosis) はしばしば悪性化する。
- (2) 漿膜下子宮筋腫は不妊の原因となることが多い。
- (3) 妊娠性の絨毛上皮腫でも、子宮に病変を認めないことがある。
- (4) 破壊性胎状奇胎と絨毛上皮腫との予後は著しく異なる。
- (5) 子宮体癌では糖尿病をもつことが少なくない。

a (1), (2), (3) b (1), (2), (5) c (1), (4), (5)
d (2), (3), (4) e (3), (4), (5)

【問 80】 子宮腺筋症 (adenomyosis) とよく合併するのはどれか。

- (1) 子宮筋腫 (2) 不妊症 (3) 子宮前屈症
- (4) 子宮内膜増殖症 (5) チョコレート嚢胞

a (1), (2), (3) b (1), (2), (5) c (1), (4), (5)
d (2), (3), (4) e (3), (4), (5)

【問 81】 次の卵巣腫瘍のうちホルモン産生に関係のあるものはどれか。

- a 顆粒膜細胞腫 b 未分化胚細胞腫 c embryonal carcinoma
- d Brenner 型腫瘍 e 充実性奇形腫

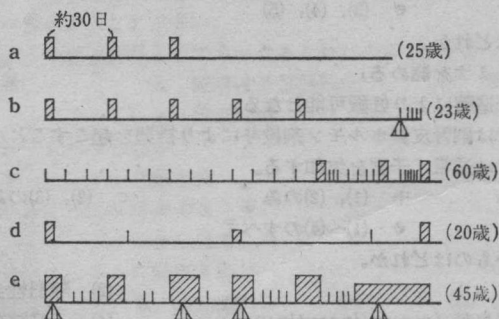
【問 82】 Meigs 症候群に関係のあるものは次のうちどれか。

- a 子宮筋腫 b 子宮体癌 c 卵巣線維腫
- d 卵管癌 e Krukenberg 腫瘍

【問 83】 次の症状のうち子宮筋腫にもっとも関係の深いものはどれか。

- a 接触出血 b 貧血 c 腰痛
- d 排卵障害 e 尿路感染

【問 84】 次の出血型、下腹痛、年齢などにより子宮筋腫として適当なものはどれか。(■ は出血, △ は疼痛を示す)



【問 85】 次のうち適切でないのはどれか。

- (1) 子宮筋腫は頸部筋腫でなくとも腔腔内まで下降することがある。
- (2) 子宮腺筋症 (adenomyosis) は病巣の限界が不明瞭である。
- (3) 子宮体癌は、多少にかかわらず子宮内膜に病変がある。
- (4) 絨毛上皮腫は子宮肉腫よりも肉眼で蒼白に見える。

a (1), (3), (4)のみ b (1), (2)のみ c (2), (3)のみ
d (4)のみ e (1)~(4)のすべて

【問 86】 胞状奇胎について誤っているのはどれか。

- (1) 絨毛細胞の過増殖をみることが多い。 (2) 絨毛間質の水腫は必ずある。
 (3) 絨毛間質の血管は乏しい。 (4) 胎児の存在することが多い。
 a (1), (3), (4)のみ b (1), (2)のみ c (2), (3)のみ
 d (4)のみ e (1)~(4)のすべて

【問 87】 胞状奇胎の組織学的特徴はどれか。

- (1) 絨毛間質の水腫化 (2) 絨毛内血管の欠如 (3) 絨毛の子宮壁内侵入
 (4) 脱落膜細胞の過増殖 (5) 絨毛細胞の過増殖
 a (1), (2), (3) b (1), (2), (5) c (1), (4), (5)
 d (2), (3), (4) e (3), (4), (5)

【問 88】 次の卵巢腫瘍のうち、性ホルモンを産生するのはどれか。

- (1) Brenner 型腫瘍 (2) 未分化胚細胞腫 (3) 顆粒膜細胞腫
 (4) 門細胞腫 (5) 充実性奇形腫
 a (1), (2) b (1), (5) c (2), (3) d (3), (4) e (4), (5)

【問 89】 次の卵巢疾患のうち多房性であることが多いのはどれか。

- a 漿液性嚢腫 (serous cystadenoma) b ムチン性嚢腫 (mucinous cystadenoma)
 c 類内膜嚢腫 (endometrioid cyst) d 類中腎嚢腫 (mesonephroid tumor)
 e 類皮嚢胞 (腫) (dermoid cyst)

【問 90】 次のうち胚細胞から発生する卵巢腫瘍はどれか。

- (1) 漿液性嚢腫 (2) 類皮嚢(胞)腫
 (3) embryonal carcinoma (4) 顆粒膜細胞腫 (granulosa cell tumor)
 a (1), (3), (4)のみ b (1), (2)のみ c (2), (3)のみ
 d (4)のみ e (1)~(4)のすべて

【問 91】 胞状奇胎娩出後の管理上、必要な検査はどれか。

- (1) 超音波 Doppler 法 (2) Rubin テスト (3) 尿中 HCG 測定
 (4) 胸部エックス線撮影 (5) 骨盤リンパ管造影
 a (1), (2) b (1), (5) c (2), (3) d (3), (4) e (4), (5)

【問 92】 卵巢嚢腫の内容容と疾患名の組合わせのうち不適当なものはどれか。

- a 陳旧性血性——子宮内膜症
 b 粥泥状、油脂状——皮嚢嚢腫
 c 微混濁黄色——ルテイン嚢腫
 d 粘稠、粘液性——漿液嚢腫
 e 透明水様性——卵嚢嚢腫

【問 93】 下記の充実性卵巢腫瘍のうち中間群に属さないものはどれか。

- a 未分化胚細胞腫 b 男性腫瘍
 c 顆粒膜細胞腫 d ブレンネル(型)腫瘍
 e 充実性奇形腫

【問 94】 子宮筋腫について誤りはどれか。

- a 30~40歳でよく発見される。 b 頸部より体部に多い。
 c 癌化することもある。 d 続発性変化として石灰化することもある。
 e 触診上硬い。

【問 95】 胞状奇胎娩出後、持続性の性器出血がある。この症例で不適当な文はどれか。

- a 破壊性奇胎、絨毛癌(上皮腫)の発症を考えねばならない。
 b その診断に HPL の測定が必要。
 c 病巣の有無、性状を檢べるため PAG を施行する。
 d 肺の X線撮影は必ず行う。
 e 尿中エストリオールの測定は意味がない。

【問 96】 子宮腔部びらんについて正しいのはどれか。

- (1) 子宮内膜の異所性増殖によって生ずる。 (2) 性成熟期には多く認められる。
 (3) 老年期には一般に認められない。 (4) 新生児期には認められない。

12 婦人科一問題

- a (1), (3), (4)のみ b (1), (2)のみ c (2), (3)のみ
d (4)のみ e (1)~(4)のすべて

【問 97】 外陰の前癌性変化または表在初期癌と関連のないものはどれか。

- a 外陰白斑症 b 外陰萎縮症 c ケラー紅色肥厚症
d ボウエン病 e 尖型コンジローム

【問 98】 子宮頸癌の集団検診法としてもっとも役立つものは次のうちどれか。

- a 細胞診 b 組織診 c コルボスコピー
d Schiller のヨード試験 e 血清学的検査

【問 99】 次の組合わせのうち正しいものはどれか。

- (1) 絨毛癌(絨毛上皮腫)の死因は破壊性出血による。
(2) 破壊性奇胎の肺転移はきわめて稀である。
(3) 脳転移を示す絨毛性腫瘍の殆んどは絨毛癌である。
(4) 胞状奇胎の診断に超音波断層法は価値が高い。

- a (1), (3), (4)のみ b (1), (2)のみ c (2), (3)のみ
d (4)のみ e (1)~(4)のすべて

【問 100】 絨毛上皮腫の転移がもっともしばしばみられるものは次の組合わせのうちどれか。

- a 胃—脳—心臓 b 胃—腸—肺 c 胃—腸—膈
d 脳—心臓—腸 e 肺—脳—膈

【問 101】 破壊性胞状奇胎と絨毛癌(絨毛上皮腫)の鑑別として正しいのはどれか。

- (1) 肺転移があれば絨毛癌である。
(2) 卵巣ルテイン嚢胞があれば破壊性胞状奇胎である。
(3) 絨毛を認めれば破壊性胞状奇胎である。
(4) 先行妊娠が満期産のときは絨毛癌のことが多い。
(5) PAG で貯留陰影像を認めれば絨毛癌である。

- a (1), (2) b (1), (5) c (2), (3) d (3), (4) e (4), (5)

【問 102】 次の組合わせのうち正しいものはどれか。

- (1) 絨毛癌(上皮腫)では転移が多い。
(2) アレキサンダー・アダムス手術は子宮後屈症に適用される。
(3) 子宮膈上部切断術後に発症する子宮癌を断端癌と呼ぶ。
(4) シラー沃度試験は頸癌の補助診断法として用いうる。

- a (1), (2), (3)のみ b (1), (2)のみ c (3), (4)のみ
d (4)のみ e (1)~(4)のすべて

【問 103】 絨毛癌(上皮腫)の化学療法剤としてもっとも適当な組合わせはどれか。

- (1) マイトマイシンC (2) メソトレキセート (3) アクチノマイシンD
(4) チオ TEPA (5) プレオマイシン

- a (1), (2) b (1), (4) c (2), (3) d (3), (5) e (4), (5)

【問 104】 子宮頸癌の診断確定後、手術適応の決定に必要な検査法はどれか。

- (1) 双合診 (2) 細胞診 (3) 子宮鏡検査
(4) 膀胱鏡検査 (5) 尿路造影法

- a (1), (2), (3) b (1), (2), (5) c (1), (4), (5)
d (2), (3), (4) e (3), (4), (5)

【問 105】 子宮頸癌で癌浸潤が基靭帯(中部子宮支帯)の半ばまで認められる場合、国際臨床進行期分類はどれか。

- a I b 期 b II a 期 c II b 期 d III a 期 e III b 期

【問 106】 次のうち正しいのはどれか。

- (1) 外陰萎縮症は外陰癌発生と関係が深い。
(2) 先天性副腎過形成では性染色体異常を証明する。
(3) Behçet 病では外陰に潰瘍を生ずることがある。
(4) 外陰癌では扁平上皮癌が多い。

- a (1), (3), (4)のみ b (1), (2)のみ c (2), (3)のみ

- d (4)のみ e (1)~(4)のすべて

【問 107】 子宮頸癌の手術適応を決めるために通常行われるのはどれか。

- (1) 双合診 (2) 尿路造影術 (3) 子宮卵管造影法
(4) 腹腔鏡検査 (5) 膀胱鏡検査
a (1), (2), (3) b (1), (2), (5) c (1), (4), (5)
d (2), (3), (4) e (3), (4), (5)

【問 108】 次の女性性器腫瘍のうち頻度の高いのはどれか。

- (1) 子宮頸癌 (2) 子宮筋腫 (3) 子宮体癌
(4) 絨毛上皮腫 (5) 卵巣嚢腫
a (1), (2), (3) b (1), (2), (5) c (1), (4), (5)
d (2), (3), (4) e (3), (4), (5)

【問 109】 子宮頸癌について正しいのはどれか。

- (1) 経産婦に多い。 (2) わが国では子宮体癌より多い。
(3) 好発部位は子宮腔部扁平上皮領域である。 (4) 扁平上皮癌が腺癌より少ない。
(5) 臨床進行期 Ia は肉眼的に癌であるとわかることが多い。
a (1), (2) b (1), (5) c (2), (3) d (3), (4) e (4), (5)

【問 110】 子宮頸癌について正しいのはどれか。

- (1) 細胞診の Papanicolaou 分類 classⅢのときはさらに精査する。
(2) 上皮内癌は国際臨床期別分類上 0 期である。
(3) コルボスコピーで白斑を認めたときは精査する。
(4) 診査組織診で上皮内癌であっても浸潤癌のことがある。
a (1), (3), (4)のみ b (1), (2)のみ c (2), (3)のみ
d (4)のみ e (1)~(4)のすべて

【問 111】 子宮頸癌の臨床期別分類について、正しいのはどれか。

- a I b は臨床所見で癌と認めがたいことが多い。
b 摘出子宮ではじめて頸部に限局する明瞭な浸潤癌が認められれば、I b“occ”とする。
c 癌浸潤が中部子宮支帯（基韧带）の半ばまで認められれば、II aとする。
d 癌によると考えられる無機能腎が認められれば、II bとする。
e 膀胱粘膜に胞状浮腫が認められれば、IV aとする。

【問 112】 子宮頸癌の診断について正しいのはどれか。

- a 細胞診における悪性判定は主として核の所見による。
b 細胞診の陽性率は臨床進行期が進むほど高くなる。
c 細胞診上、上皮内癌と浸潤癌に差はない。
d 狙い切除組織診は臨床進行期分類の決め手となる。
e コルボスコピーは確診上不可欠である。

【問 113】 Krukenberg 腫瘍について正しいのはどれか。

- (1) 主として消化器癌からの転移による。
(2) 両側卵巣に発生することが多い。
(3) 腫瘍細胞は粘液反応陽性のことが多い。
(4) 子宮出血を認めることが多い。
(5) 子宮頸癌よりも予後良好である。
a (1), (2), (3) b (1), (2), (5) c (1), (4), (5)
d (2), (3), (4) e (3), (4), (5)

【問 114】 子宮頸癌で癌浸潤は腔の下方 1/3 に及ばず、側方は骨盤壁まで達している場合の国際臨床期別分類は次のうちどれか。

- a I a 期 b I b 期 c II a 期
d II b 期 e III 期

【問 115】 子宮頸癌について正しいのはどれか。

- (1) I b 期の内向発育型の癌は花菜状 (cauliflower-like) を示す。
(2) I b 期では骨盤リンパ節転移を認めない。